

2003年(平成15年)10月18日(土曜日)

秋晴れの空が高い。真つすぐ飛べば、あの国まで飛行機でほんの二時間と聞く。しかし、その報告は同じ世界とは思えないおぞましい現実を伝えた。

「公開処刑はしょっちゅう。飢えでがりがりにやせた人を縛り上げ、口の中に石をつめてあごをはずし、目から撃ち抜く。ほかの囚人が石をぶつけ、顔の皮膚はただれ落ちる」

先日、北朝鮮の政治犯収容所に十年間入れられていた脱北者、姜哲煥さん

パイ
ナイフ

収容所

ん(三五)が来名し、その実態を語る朝鮮総連の人たちの思い語った。収容所には日本からが、逆に理解できたような気が帰国した人や日本人妻が非常がした。

に多く、「在日村」まであった。同じ世界、同じ空の下に生との話に驚き、胸が痛んだ。きる私たちにできることは何親類を北朝鮮に訪ねた在日か。

の家族が突然スパイ容疑で収容され、処刑を見た娘さんがり始めたことで、現在いくつあまりの残酷さに気絶したとかの収容所は閉鎖されたといも。帰国者にとって、物う。姜さんは母や妹を残してや金を送ってくれる日本脱北した底知れぬ悲しみを抱の親類だけが「命綱や金え、「収容所に国連の人権査づる」だとの報告だった。察を」と訴えた。

金正日総書記の肖像画 私たちは事実を知ること
を建物内に掲げ、北の政で、ささやかでも協力できる
権を擁護する発言を続けはずだ。(辻 智之)